



健康かわらばん

第98号 (令和4年5月号)

特集: 代表的な漢方製剤 (その1)

1. 芍薬甘草湯 (シャクヤクカンゾウウト)

筋肉のけいれんをとる薬です。こむら返り、しゃっくり、ぎっくり腰等に有効で、内臓の筋肉にも効果があり、尿管結石、腹痛にも用いられることがあります。10種類以上の生薬からなる製剤が多い中、芍薬と甘草という2種類のみから成りたっており、速効性があります。甘草の含有量が多いため、長期連用ではむくみ、高血圧、低カリウム血症を引き起こすときがあり、頓服で使用します。



君薬: 芍薬



臣薬: 甘草



こむら返り



しゃっくり



ぎっくり腰



腹痛

2. 小青竜湯 (ショウセイリョウト)

アレルギー性鼻炎の定番の薬で、咳にも有効です。効果の持続が現在の西洋薬より少し短いのが欠点ですが、速効性があり、眠気も出ません。西洋薬との併用も可能です。高齢者や虚弱体質の人で主成分の生薬である麻黄により動悸・発汗の起こる人は、穏やかな苓甘姜味辛夏仁湯 (リョウカンキョウシキゲントウ) という類似薬もあります。



君薬: 麻黄(マウ)



臣薬: 桂皮(ケイヒ)



くしゃみ・鼻水



咳

3. 五苓散 (ゴレイサン)

脳や内耳のむくみを取る作用があり、めまい、車酔い、二日酔い、飛行機降下時の頭痛、低気圧による頭痛に有効です。水分が摂れる状態なら、吐き気にも有効です。前号の気血水の説明にある「水毒」に有効な「利尿剤」の代表的な薬で、西洋薬の「利尿剤」と異なり余分な水分のみを減らし偏りを改善しますが、脱水・頻尿等の副作用はほとんど出ません



君薬: 茯苓(フクメイ)



臣薬: 猪苓(チウレイ)



めまい



吐き気



低気圧による頭痛



二日酔い

4. 呉茱萸湯 (ゴシュウト)

片頭痛の薬で、目を中心とした片側の顔面のズキンズキンとした痛みにも有効です。体を温める作用があり、冷えのある人に特に有効です。しゃっくりにも使用することがあります。副作用はあまりありませんが、主成分の生薬の呉茱萸の苦味が強く、なかなか飲めない人がいます。(その人の証に合う薬は一般に美味しく飲めるとは言われております。)



君薬: 呉茱萸(ゴシュウ)



臣薬: 生姜(シヤウキヤウ)



片頭痛



しゃっくり

5. 当帰四逆加呉茱萸生姜湯

(トクシギヤクカゴシユシヨウキョウトウ)

元々冷え性で冬季にしもやけになりやすい人の薬です。体を芯から暖め、手足の血行も改善します。冷えが原因の腰痛・頭痛・下腹部痛にも有効です。やはり呉茱萸を含むため苦味があります。冷え性に効く西洋薬はほとんど無く、漢方薬が第一選択となります。冷えを訴える人のほとんどは虚証ですので、実証の人には向きません。

6. 黄連解毒湯 (ワレシゲドク)

ほてりに効く代表的な薬です。ほてりをさます薬も西洋薬にはほとんど無く、漢方の出番となります。イライラや口内炎・皮膚の痒みにも有効なことがあります。実証用の薬で、虚証の人には用いると有害な場合があります。

女性では冷えとほてりを訴える人も多いのですが、婦人科系の製剤では両方の症状に有効な薬がいくつかあります。



君薬：当帰(トクシギ)



臣薬：芍薬(シヤクヤク)



冷え性



しもやけ



冷えによる腰痛



冷えによる頭痛



君薬：黄連(ワレシ)



臣薬：黄芩(ワウジン)



ほてり



イライラ

7. 補中益気湯 (ホチュウエキトウ)

虚弱な人の全身倦怠感、食欲不振に有効な補気剤(気虚の薬)の代表です。疲労の蓄積で低下した免疫能と消化機能を元に戻す作用があり、病後の体力改善や寝汗にも有効です。類似の製剤で夏バテ専用の清暑益気湯(セイショエキトウ)という薬があり、高温・多湿で作業する人の熱中症予防にも使われます。重病や癌などでもっと体力が低下し、貧血気味の人には、十全大補湯(ジュウゼンダクタイトウ)や人参養榮湯(ニンジンヨウエイトウ)が適応になります(気虚と血虚の薬)。

8. 八味地黄丸 (ハチジワカン)

老化の諸症状を改善する薬です。夜間頻尿・腰痛・足のしびれ・疲労倦怠などの老化現象に有効です。むくみもあるときには、類似薬の牛車腎気丸(ゴシヤジンキガン)が使用されます。いずれも主成分である生薬の地黄のため、連用すると胃腸障害を起こすことがあります。



君薬：黄耆(ワウキ)



臣薬：人参(ニンジン)



食欲低下



全身倦怠



夏バテ



貧血・体力低下



君薬：地黄(ワジ)



臣薬：山茱萸(サンシュヨ)



頻尿



腰痛

で解致
次号降
の製剤は
胃腸系、
や精神・
風邪関連
が起きや
われてお
静脈硬化
虚証の人
の製剤を
きにも有
が起きや
われてお
や精神・
胃腸系、
の製剤は
次号降
で解致
します。



胃腸系、婦人科系、
風邪関連の諸症状
や精神・神経系、
の製剤は、
次号以降
で解説致
します。

虚証の人に実証用の製剤を用いたときにも有害な反応が起きやすいと言われております。また、静脈硬化症の報告もあります。また、虚証の人に実証用の製剤を用いたときにも有害な反応が起きやすいと言われております。

舌のしびれ、人参(ニンジン)の高血圧に注意が必要です。多くはないですが、黄芩(オウゴン)の間質性肺炎、山梔子(サンシシ)の腸間膜静脈硬化症の報告もあります。また、虚証の人に実証用の製剤を用いたときにも有害な反応が起きやすいと言われております。

あどがき

前号の「漢方薬の基礎知識」を受けて、今回は代表的な漢方製剤を簡単に解説しました。副作用が少ないとはいえ、漢方薬でもアレルギー反応を起こす人はいますし、含まれる生薬により気を付ける点があります。本文に記載されている甘草(カンゾウ)・麻黄(マオウ)・地黄(ジオウ)の他に大黄(ダイオウ)の下痢、附子(ブシ)の動悸・のぼせ、舌のしびれ、人参(ニンジン)の高血圧に注意が必要です。多くはないですが、黄芩(オウゴン)の間質性肺炎、山梔子(サンシシ)の腸間膜静脈硬化症の報告もあります。また、虚証の人に実証用の製剤を用いたときにも有害な反応が起きやすいと言われております。